

令和 6 年度 事業報告

【社会福祉法人 愛敬会】

当法人は特別養護老人ホーム清泉開設以来 28 年間にわたり、地域の皆様の安心を支える福祉施設としてその運営に努めてきた。

令和 6 年度は、「それぞれの部署が役割を自覚し、組織として成長する」という中期目標の下、「求められる施設であるために、基本を身につけチームとしてレベルアップする」という目標を掲げ、外国人技能実習生や新卒者の受け入れを機に、全員が基本を大切にチームとして利用者満足度を高められるよう取り組んできた。

全職員が改めて基本を見直し一緒に学び合えたことや技能実習生や新卒者それぞれが成長し今大きな戦力となったことは、チームとして成長できたことの一つであった。

また、コロナ禍も少しずつ落ち着き、面会の緩和や地域の方々を招いてのイベントの開催ができたことは、開かれた施設に向けての一步を踏み出せた一年だったと思う。

一方、法人全体としては、一年を通して退職した職員の補充が困難で、人材確保の厳しさを痛感させられる一年であった。特に、人材不足により 19 年間運営してきた認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）を休止せざるを得ない状況になったことは法人として対象者受け入れの幅を狭める結果となった。

今後も厳しい経営環境はますます激化すると考えられる。事業を継続していく為には、利用者・地域に求められる施設であると共に職員に求められる施設一職員がここで働きたいと思える職場環境であることも欠かせない要素の一つであるということを認識し、「地域の高齢者の生活を支え、地域を支える」という大きな使命を果して行かねばならない。

令和 6 年度目標の具体的な重点項目に対しては以下の通り。

1. 私たちに求められることを各部署で確認し共有する。

4 月の部署会議で各事業所に求められていることを話し合い、職員会議にて発表し共有した。

2. チームで専門的知識・技術の底上げをする。

(1) 部署会議で年間計画を立て勉強会を実施し、成功事例を積み上げる。

年間計画を立てマニュアルの読み合わせを行ったが、成功事例を積み上げるには至らなかった。

(2) 法人が行う委員会や研修会で基本的な考え方を確実に身に着ける。

各種委員会の取組みに記載の通り、研修会を実施し基本を学ぶ機会を持った。

- (3) それぞれのレベルに合わせた研修会を受講し、業務に活かす。
認知症基礎研修、認知症実践者研修、認知症実践者リーダー研修、ユニットリーダー研修、介護実務者研修、介護支援専門員更新研修受講で資格取得。また、中間管理職研修として組織マネジメント研修の受講など多くの研修を受講する機会を持ち、学んだことは職員会議にて発表し周知した。
- (4) 新入職員や技能実習生の育成。
新入職員・技能実習生共に順調に成長し、大きな戦力となっている。

3. 施設の空間を居心地の良い場所とする。

- (1) 気持ちの良い挨拶を行う。
きちんと立ち止まって挨拶する職員も多く、今後も継続していきたい。
- (2) 普段のコミュニケーションを大切にする。
わかりやすい言葉、聞き取りやすい速さ・トーンで話すことに努めたが、時折利用者へ強い口調になることもあり、さらに気にかけていきたい。

4. 人と人の繋がりを増やす。

- (1) クラブ活動や教室を実施する。
全体的には童謡クラブを月1回、料理教室を年3回実施。デイサービスでは日課の中で体操、リハビリ、農作業等を実施した。
- (2) 利用者、家族、地域とのイベントを行う。
5年ぶりに地域の方やご家族を招待しての敬老祝賀会、秋には実行委員会による野外イベントを行うことができた。
- (3) ホームページやお便りで情報を発信する。
各部署よりホームページへの話題提供を行い掲載したが、まだ魅力あるホームページの作成には至っておらず、今後の課題。
担当者よりのご家族へのお便りは1回行った。

5. 持続可能な法人である為に努力する。

- (1) 人材確保
- ・働きやすい職場作りで離職者を10%以下にする。
年間退職者 18名（24%）と多数となった。内、3名定年退職、4名 GH 閉鎖による退職。
年間入職者 7名 平均勤続年数 8.55年
 - ・多様な働き方へ対応する
短時間勤務、夜勤専従など時間制限の職員や介護アシスタントなど業務限定の職員採用を行った。また、シルバー人材センターの派遣事業も活用した。
- (2) 収入アップ・支出削減で、機器、ICTの導入促進、職員の待遇改善に繋げる。
- ・稼働率、利用者数共に目標値達成には至らなかった。

- ・令和6年度報酬改定に対応し、加算取得に努めたが、取得できていない加算については早急に対応できるように努力する。
 - ・入浴機器の導入で職員の負担軽減に繋がった。
 - ・介護処遇改善手当取得により職員の処遇改善に繋がった。
 - ・次年度からの記録の電子化に向けて、全職員の研修を行った。(3回)
- (3) 地域の社会福祉法人として、地域貢献の姿勢を忘れない。
地域の美化作業に職員が参加し、地域の方々との交流の機会とすることができた。
(年2回)

以下、各部署目標に対しての報告

〔1〕各部署の取組み

《1. 特別養護老人ホーム》

【特養（従来型）】

・入所者の状況

30名中、男性2名、女性28名の平均年齢は共に90.1歳
介護度3が2名、介護度4が16名、介護度5が12名
平均介護度は4.33(3月末現在)となっている。

開設当初から「看取り介護」に取り組んでおり、これまでに多数の方が清泉で最期を迎えられている。6年度は5名の方が亡くなられたが、その内の4名の方が清泉で最期を迎えられた。(80%)

部署目標

『職員一人一人が得意分野で力を発揮し利用者の笑顔を引き出す』

1. チームで専門的知識・技術の底上げをする

①マニュアルを通してケアを統一する。

- ・年間計画を作成し毎月の部署会議で介護・看護それぞれマニュアルの読み合わせを行う。
- ・マニュアルを用いて、新人職員・外国人技能実習生の指導に活用する

②ノーリフティングの推進

- ・ポジショニングの基本を理解し安全なケアの統一を行う。
- ・全員が介護機器を安全に使えるようになる。

2. 施設の空間を居心地の良い場所とする

入居者 家族 職員から笑顔が返ってくる挨拶

- ・マスクの中から伝わる笑顔。
- ・わかりやすい言葉、聞き取りやすい速さで話すことを心掛ける

3. 職員の得意分野を生かし、家族と共に楽しめるイベントを開催する。

- ・ファッションショー。
- ・春夏秋冬季節を感じるイベント

4. 持続可能な法人であるために努力すること

①空床 2.0%（年間 219 床）以下とする。

- ・健康管理に努め入院による空床を減らす。
感染予防策の徹底。
職種間で情報を交換し異常の早期発見に努める。
医療機関への迅速で的確な情報提供。
- ・退居～入居の空床を減らす。
入所検討委員会の充実でスムーズな入居に繋げる。
待機者状況の計画的な把握に努める。
診療情報提供書等医療情報を早めに収集し、事前準備を綿密に行う。

②加算の算定

報酬改定に伴い、各種加算を理解し取得に努める。

5. ショートステイの有効活用で在宅生活を支える。

- ・他事業所と連携し、スムーズに情報収集を行いサービス提供する。
- ・身体機能の維持、向上を目的とする個別機能訓練と生活リハビリの充実。
- ・利用中の生活が活性化するレクリエーションやアクティビティの内容の充実
- ・1 日平均 6.8 床を目指す。

結果として

- ・職員一人一人に介護マニュアルを渡し、1 年を通して介護 看護マニュアルの読み合わせを行い統一したケアを心掛けた。
- ・ノーリフティングケアにおいては、委員会を中心に職員一人一人入居者の安楽な姿勢について指導を行い、入所者の安心安全な生活につながる様に取り組みを行った。
- ・今年度は、季節行事担当者が中心となり、季節ごとのイベントを開催することが出来た。
桜の花見、ミニ夏祭り、敬老会、ファッションショー、芋ようかんづくり クリスマス会等、季節を肌で感じることで、入所者の方々の笑顔を引き出すことができた。
- ・目標 空床 2.0%（219 床）以下としていたが、入院による空床 101 床 退所による空床 126 床、合計 287 床で、空床率 2.62%となり目標を達成することができなかった。

今後も入所者の重度化が予想され、体調管理による早めの対応で入院者数を減らし
ていくよう取り組む

【特別養護老人ホーム（ショートステイ）】

今年度も昨年度に続き、コロナウイルス感染症対策を行いながらの1年であった。今年度は事業所においてコロナウイルス感染症が二度発症し、その間は利用制限を行ったため昨年を超える利用者を受け入れる事が出来なかった。その間はデイサービスをスポットで利用していただくなど、在宅生活が継続出来るよう他事業所に協力いただいた。

また、現在も継続してノーリフティングケアを実施している事で、職員の意識や技術の向上もあり、ショートステイ利用者本人の残存機能を活かしたケアが出来ている。加えて今年度下半期より、毎日15分程度の体操を実施し、身体機能の低下を防ぎ、在宅を支えるための役割を担う事が出来ていたと考える。

その他、例年に比べ経管栄養の方等要介護認定の重度の方の受け入れをしたが、特に問題なくケアを行っている。

数値目標「一日平均利用ベッド数 6.8床」

実 績

利 用 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度合計
利用ベッド数	147	150	159	213	225	170	187	191	176	205	156	145	2,124
当月1日平均	4.9	4.8	5.3	6.9	7.3	5.7	6.0	6.4	5.7	6.6	5.6	4.7	5.8
平均介護度	2.5	2.7	2.9	2.7	2.5	2.6	2.7	2.5	2.	2.4	2.2	2.4	2.6

目標 6.8 床に対し、5.8 床と目標には至らなかった。

その一番大きな理由は、毎月予定していた利用者が入院によりキャンセルされる事が多かったことで、多い月では延べ30日を超すこともあった。

また、2月は、特別養護老人ホーム従来型のコロナウイルス感染症クラスター発生により営業停止は行わなかったが、利用者家族の希望でキャンセルが生じたことなども影響していたと考えられる。

介護度が重度化し、在宅の生活が困難になってきた利用者のショートステイの利用回数が増える傾向にあるが、同時に特別養護老人ホームや有料老人ホームへの入所になる利用者も多く、突発的に空床が出る事が多い1年だった。

しかし空床を利用して、グループホームからの特例入所を受けることが出来た。平均介護度を比較すると前年度とほぼ変わらず。令和5年度2.5に対し、6年度は2.6。利用日数がマイナス31日に対し、収入が上がったのは、報酬改定によるものと考えられる。（要介護1・2は7点、要介護3は8点、要介護4は9点、要介護5は10点前年度より上がった）

その他、昨年度より他居宅介護支援事業所や他通所リハビリテーションを利用されている利用者へ個別機能訓練の実施を行うことが出来るように連携を図った。

【地域密着型・特養（ユニット）】

・入居者の状況

男性 1 名、女性 19 名が入居されており、平均年齢 92.6 歳。

介護度 3 が 3 名、介護度 4 が 8 名、介護度 5 が 9 名、平均介護度は 4.3

重症者の割合が高くなっている（3 月末現在）

地域密着型特養にて 6 名の方が亡くなられ、全員が清泉で最期を迎えられた。

部署目標

『職員がチームとして 利用者一人一人が望む暮らしを実現する』

1. 24 時間シートを活用し、一人一人の暮らしに目を向ける。

- ・ケア変更時の変更内容記入を習慣化する。
- ・利用者の思いと家族の思いを知る。

2. 家族参加の運営推進会議の充実。

- ・年間計画を作成し内容を提示する。
- ・年 2 回（5 月 11 月）イベントを同時開催とし、利用者 家族 地域とのつながりを持つ。

3. 介護の基礎知識の勉強会を実施する。

- ・月 1 回部署会議で介護マニュアルの読み合わせを行い、ケアの統一を行う。
- ・マニュアルを用いて、新人職員・外国人技能実習生の指導にあたる。

4. 経営安定のために

(1)空床率 2.0%（年間 146 床）以下を継続する。

- ・健康管理に努め、入院による空床を減らす
感染予防対策の徹底。
職種間で情報を交換し、異常時の早期発見に努める。
医療機関への迅速で的確な情報提供。
- ・退居～入居の空床を減らす
入所検討委員会の充実でスムーズな入居につなげる。
待機者状況の計画的な把握に努める。
診療情報提供書等、医療情報を早めに収集し、事前準備を綿密に行う。
- ・入院が長期になる場合、空床を利用した積極的なショートステイ受け入れの実施。

(2)加算の算定

報酬改定に伴い、各種加算を理解し取得に努める。

(3)効率の良い勤務シフトの検討

結果として

- ・今年度 24 時間シートが完成し 入居者の日々の様子や、関りのなかで小さな変化に気付くことが出来、入居者がその人らしく生きていけるようなケアが出来るようになった。今後は、その変化の気付きを 24 時間シートへ確実に反映できるよう見直していく事が課題となる。
部署会議にて意見を出し合い利用者一人一人をより深く知り、職員全員で情報を共有する事で統一したケアを心掛けた。
- ・コロナ感染予防のため地域の方との交流はできなかったが、運営推進会議では、5 月にユニットウッドデッキにて茶話会を兼ねて開催し、11 月は施設の中庭にて秋のイベントを一緒に楽しみ関係性を深めることができた。
- ・介護マニュアルの読み合わせにより統一したケアを実施することができる様になり入居者の方の安心で安楽な生活に繋げることができた。
- ・目標空床率 2.0%（年間 146 床）以下としていた。
今年度 入院による空床 58 床、退居による空床 328 床、合計 365 床で、空床率 5.00% となり目標を達成することが出来なかった。
今後も入居者の重度化が進むことが予想され、体調管理に努め早めに対応していくよう取り組む。入所検討委員会を充実しスムーズな入居に繋げる。

特養従来型及び地域密着型特養の待機者状況

令和 6 年 3 月末現在の特養従来型への申込者は、71 名。地域密着型特養への申込者は、56 名（両施設への重複申込み者を含む）

前年度に比べ、申込者は減少しているが、施設の収容人員に限度があり、依然として入所が困難な状況は継続している。

《 2. 通所介護（デイサービス） 》

デイサービスでは、リハビリ、アクティビティなどに力を入れており、1 人 1 人に合わせたケアの提供をしている。利用者の高齢化、重度化も少しずつ進んでおり、やりたいことも多様化してきているため、令和 6 年度の目標を『安心・安全・楽しく過ごしていただけるデイサービスになる』とした。

この目標を達成する取り組みとして、

1. 認知症をはじめいろいろな疾患、症状の方に対応できる専門的知識・技術を向上させる。
 - ① 部署別勉強会で介護の基本的な知識や、医療的な知識を習得する。
 - ② 回覧しやすいファイルを作成し、法人の会議・研修の周知を徹底する。
 - ③ デイ会議にて、リハビリの専門職より、個別の介助方法や注意点などを報告し、職員全員がリハビリの視点を持って関われるようにする。
 - ④ 外部の研修会へ積極的に参加する。

2. 居心地のいい、楽しい空間作りに心がける。

- ① 用者全員への挨拶と1日1声以上声かけをする。
- ② 手芸や脳トレなど、好きな事、得意なことを見つけて1人1人に合ったものを提案、実施する。
- ③ お花見やだご汁会、夏祭り等、季節を感じられる行事、レクリエーションの年間計画を立てて実施していく。
- ④ 1人1人の好きなことや得意なことを機能訓練に取り入れ、楽しみながらできるリハビリを提供していく。
- ⑤ 中庭を出入りしやすく、楽しめるように整備し、活用していく。
- ⑥ ICT活用により、健康チェック表の記録など効率的な仕事を行う。

3. 利用者様の増加と収入の増加を目指す。

- ① 1日平均の利用者数が27名(要介護+要支援)
- ② 1年間の利用者総数が8843名(要介護+要支援)
を目標とした。

事業の成果

令和6年度は8月に台風のために2日間営業中止があり、307日の営業であった。

1日の平均利用者数は、要支援、要介護のみで23.5名。前年比0.1名減となり、目標の27名には3.5名届かない結果となった。

年間利用者数は、要支援、要介護のみで7,205名、前年比98名減少した結果となり、目標の8843名より1638名少ない結果となった。

介護度別利用者数では次表のとおり。括弧内は前年比。

支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計
32 (-6)	734 (-27)	2,876 (+226)	2,085 (-152)	753 (-145)	500 (-6)	225 (+42)	7,205 (-98)
自立支援		A 型		グループホーム		合計	入浴者数
162 (+58)		500 (+35)		85 (+70)		7,952 (+65)	6,580 (-193)

令和6年度は、台風の影響もあり、前年度より3日少ない307日の営業だった。1日の平均利用者数は23.5名で、前年度と同程度の結果となった。営業日数が少なかったため、利用者総数は前年から98名少ない7205名であった。

ただ、自立支援、A型、グループホームの入居者など、要介護・要支援以外の方の利用数は全て増加した。新型コロナウイルスが5類に移行され、感染対策もさらに緩和され、コロナウイルス関連を理由にお休みをされた方は24名と、前年度の4分の1程度の人数であった。

今年度は、要介護 1 の方と要介護 5 の方の利用が前年度より多く、要介護 2 と 3 の方は前年度よりも大幅に少ない結果であった。要介護 2～3 の方はデイサービスの利用日にショートステイに入られる方も多く、ショートステイ利用中でデイサービスをお休みされた方は年間で 751 名で、前年度から 50 名程度増加した結果となった。新規の利用者様も、清泉にはショートステイがあるから利用したいと言われる方が多くなっている。また、入院も長期化するケースも多く、入院後に施設入所となられる方も何名かおられた。家族の介護負担軽減のために老人保健施設に数か月入所される利用者も何名かおられた。入院、老健入所中でデイサービスをお休みされた方は、1014 名で前年度よりも 144 名と大幅に増加した。以上のことにより、前年度同様、利用者の高齢化や、重度化、家族の負担の増加、在宅での生活が難しくなっている人が増えている結果だと考える。

要支援・要介護の方以外では、自立支援、総合事業 A 型の利用者共に増えており、今後デイサービスへ移行されたり、ショートステイを利用されたりと、長期的なサービスの利用につながることを期待できる。実際に自立支援、総合事業の利用者が要支援・要介護の判定が出た場合は、全員がそのままデイサービスを継続して利用されている。

目標に対する取り組みの成果は以下の通りである。

『1. 認知症をはじめいろいろな疾患、症状の方に対応できる専門的知識・技術を向上させる』の目標に対して、

『① 部署別勉強会で介護の基本的な知識や、医療的な知識を習得する』については、毎月のデイ会議にて勉強会を行い、基本的なことから医療的なことまで知識を習得することができた。

『② 回覧しやすいファイルを作成し、法人の会議・研修の周知を徹底する』については、回覧ファイルを作成し、回覧のチェック欄を設けることで周知徹底ができるようになった。

『③ デイ会議にて、リハビリの専門職より、個別の介助方法や注意点などを報告し、職員全員がリハビリの視点を持って関われるようにする』については、終礼で、必要に応じて専門職からのレクチャーを受けることにより、リハビリの視点を持ってケアすることができた。

『④ 外部の研修会へ積極的に参加する』については、オンライン研修等を受けることができたものの、全職員が受けることはできなかった。

『2. 居心地のいい、楽しい空間作りに心がける』の目標に対して、

『① 利用者全員への挨拶と 1 日 1 声以上声かけをする』については、できた日もあれができない日もある状態だった。

『② 手芸や脳トレなど、好きな事、得意なことを見つけて 1 人 1 人に合ったものを提案、実施する』については、利用者 1 人 1 人に合ったものを提案でき、満足の向上につながった。

『③ お花見やだご汁会、夏祭り等、季節を感じられる行事、レクリエーションの年間計画を立てて実施していく』については、だご汁会、夏祭り週間など季節を感じられるような取り組みができた。

『④1人1人の好きなことや得意なことを機能訓練に取り入れ、楽しみながらできるリハビリを提供していく』については、リハビリを楽しみにしておられる利用者も多く、毎回、ほぼ全利用者に個別訓練を提供することができた。

『⑤中庭を出入りしやすく、楽しめるように整備し、活用していく』については、活用していくまでには到達できず、今後、取り組んでいきたい。

『⑤ICT活用により、健康チェック表の記録など効率的な仕事を行う』についても、進めることができなかった。業務の効率化のためにも今後、取り入れていく必要があると考える。

(今後の取り組み)

利用者1人1人に合わせたケアやリハビリ等を行っていくことで、利用者増につながったこともあり、今後も丁寧なケアを実施し満足度の向上に努めていきたい。今年度は、中庭の活用やICTの活用などできなかった部分もあった。今後、人材不足も深刻になることも予想されるため、ICTを活用し、業務の効率化を図り、働きやすい職場を作っていくことで、利用者・職員の満足度の向上を目指していきたい。

《3. 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）》

部署目標

『認知症の理解を深め、入居者が心身共に自由に暮らせる場所になる』

1. 個々の望みを最低1つは叶える。

- ・担当者は利用者の望みの聞き取りを行い、チャレンジシートへ計画を記載し、実行する。

2. チームで専門的知識、技術の底上げを行う

①年間計画を立て、毎月グループホーム会議で認知症の勉強会を行う。

- ・参考資料は2023年【おはよう21】を用い、10分間程度。
- ・良く月のグループホーム会議にて学んだことを振り返り、成功事例を共有する。
- ・施設内、施設外の研修会へ参加し学ぶ

②ケアプランに沿った個別リハビリの実施

- ・残存能力に目を向け、入居者の出来る事の継続を行う
- ・個別リハビリの必要な方には、専門職（理学療法士、作業療法士）に相談し目標設定を行い、訓練を実施する。

3. グループホームの空間を居心地の良い場所にする

①気持ちの良い挨拶に加え、気持ちの伝わる言葉を一言掛ける

②家庭の空間であることを意識し、会話の声のトーンに配慮する。

③季節行事、誕生会の実施（ご家族を招待、自宅絵の外出等）

4.持続可能な法人である為に

①空床率 3%以下を目指す

- ・入居、退居をスムーズに行い空床を減らす
入居検討会をを 4 カ月に 1 回開催し、待機者の状況を把握する。
- ・体調管理を徹底し医療との連携を行い、入院を減らす。
Dr 往診時状態報告を行い、駛馬の対応に心掛ける。

事業の結果

上記目標に沿うよう運営を行ってきたが、職員の人材不足や経営状況悪化の懸念などの要因が重なり、協議を重ねた結果、グループホーム清泉は、令和 6 年 12 月 31 日を以って事業休止とした。

入居者については、本人や家族の希望に沿いながら適切に対応し、当法人の施設や市内のグループホームなどへ全員移転ができた。

空床率 （目標：3%以下）

利 用 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年度合計
ベッド数	270	279	270	279	279	270	279	270	279	279	252	279	3,285
利用者数	263	279	243	248	248	240	202	130	58	0	0	0	1,911
空床数	7	0	27	31	31	30	77	140	221	279	252	279	1,374
空床率(%)	2.59	0	10	11.11	11.11	11.11	16.49	51.85	78.85	100	100	100	40.85

《4. 居宅介護支援事業所》

部署目標

『法人の利用者情報を共有し、協力して困難事例に取り組む』

1. 知識の習得と活用
 - ・更新研修で基礎から学び直し、業務に活かす。
2. 勉強会に参加し学びを得ると共に、他事業所との交流を図る
 - ・地域の勉強会を中心に参加する。
 - ・学んだことを部署会議で発表し、学びを共有する。
3. 新規依頼を受けた時から情報を共有する
 - ・新規依頼時は相談記録を活用し、情報を共有する。
 - ・介護トータルシステム寿を活用し、情報を共有する。
4. 要介護 35 件、要支援 8 件の受け持ち件数を確保する。
 - ・近隣病院の連携室との連携強化
 - ・近隣の病院情報の把握と関係作り

事業の結果

令和 6 年度の受託件数は要介護 1～5 の方が年間延 694 名、要支援 1～2 の方で年間延 112 名の利用者の方々から居宅介護支援業務（予防含む）を受託した。

当該年度及び過去 4 年間の実績は以下の通りである。

(人)		令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
要介護	年延数	723	733	704	697	694
	月平均	60	61	59	58	57.8
要支援	年延数	174	187	163	116	112
	月平均	14	15	14	9.7	9.3
累計	年延数	897	920	867	813	806
	月平均	74	77	72	68	67

令和 6 年度の新規利用者数は、要介護 18 名（内、要支援から要介護変更者 2 名）要支援 5 名、延べ利用者数は前年度比 7 名の減少。

要介護者数は 3 名の減少。要支援者数では 4 名の減少。要支援者、要介護者共に前年度を僅かに下回る結果となった。目標の数値に対しては、要介護者一人当たり月 28.9 名、要支援者一人当たり月 4.7 人で達成することが出来なかった。

要介護の新規契約に関しては、前年度が大幅増だった事もあり減少しているが、堅調に依頼が来ており、受け持ち件数においては目標を上回る月もあったが、入院等により実績には繋がらない事例も多く、実績としては目標に及ばない結果となった。

《 5. 地域連携室 》

令和 6 年度の部署目標を

『地域との関りを持ち、クライアントの社会性を引き出す』とした。

1. 生活困窮者レスキュー事業

1 件の依頼があり、対応した。今回に限っての事ではあるが、以前支援をした 20 代夫婦とその子供に対する支援であった。疾病により計画的な金銭管理が出来なかったものと考えられ対応したが、今後は子育て支援課やくらしサポートセンターの支援を受けながら自立した生活が送れるよう、事業所に引き継いだ。

2. 地域の方々とイベントを開催する

新米の収穫時期である 11 月 7 日に「秋のイベント」を開催した。
目的は前年同様、地域の方々が集っていただける楽しい場所の提供が出来るようになる事と利用者、家族が共に過ごせる時間をつくる事。今年度は、地域の食の名人のボランティアのもと、郷土料理のお姫様団子汁とおにぎりを作り、利用者の家族、民生委員児童委員の方々、運営推進会議メンバーの方、「七城混声コーラス」の方、地域の方に提供した。また食事会の後には、「七城混声

コーラス」の方々のコンサートに利用者の方々も参加いただき、楽しい時間を共有することが出来た。

3. 法人の取り組みを HP に載せる

今年度もブログを毎月更新した。各部署で担当を割り振り、その月に実施した部署での取り組みを発信することで職員のやりがいや魅力ある職場作りに努めた。毎月掲載することで、年 780 件、月平均 65 件の閲覧があった。主に菊池市、熊本県、東京の方が見て下さっているのが印象的である。

4. 臨床美術

令和 6 年度は、実施なし。

《6. 栄養課》

部署目標

『チームの一員として役割を担い、食を通して利用者の心身共に豊かな生活を支援する』

1. 人と人の繋がりを増やす

①月 1 回、各地の郷土料理を提供する。

毎月各地の郷土料理を提供し、各地の味を楽しんで頂いた。昨年度から開始し現在 18 都道府県の料理を提供することができている。

また、郷土料理が話題となり、利用者とのコミュニケーションツールとなっている。

②地域の方より地元の郷土料理を学ぶ機会を設け、地元の郷土料理の掘り起こしを行う。

施設と地域の方の力を借りながら郷土料理の料理教室を 3 回実施することができた。第 1 回目は「粉かけ」と「とじこ豆」。第 2 回目は「お姫様団子汁」「辛子蓮根」「里芋の味噌和え」など。第 3 回目は「おせち料理」を地域の方に教えて頂いた。料理教室には、職員や利用者の方も参加し、楽しい時間となった。学んだ料理は、利用者の方に提供することができた。夏には粉かけ、秋にはお姫様団子汁、里芋の味噌和え、冬には冬瓜のカレースープを提供した。

郷土料理を通して、地域の方と繋がる機会を持つことができた。

③「清泉のおいしい食事」を広報誌やホームページで紹介する。

行事食や料理教室の様子を広報誌やホームページに掲載し、情報を発信することができた。

2. チームで専門的知識・技術の底上げをする

高齢者の食欲不振について、栄養士の経営管理（加算・給食運営）について研修を受講した(2 回／年)。学んだことを部署会議で伝えることはできなかった。

た。

3. 施設空間を居心地の良い場所とする

①週3回以上ミールラウンドを実施する。

週3回ミールラウンド実施。食事の様子を確認を行い記録している。

各部署スタッフと連携し摂取状況の把握に努め、利用者の方に合った食事を提供することができた。

②2月1回（献立提出時）、委託スタッフと献立内容等の打ち合わせを行い、現場の意見も取り入れ連携を図る。

委託スタッフと相談しながら献立内容等の打ち合わせを行うことができ、スムーズに業務に取り組むことができた。

4. 持続可能な法人である為に努力する

①栄養マネジメント強化加算の算定継続。

②経口維持加算算定(Ⅰ)400単位/日の対象者の把握を行い、対象者全員に対応し加算を取得する。

栄養マネジメント強化加算は継続して算定することができた。

経口維持加算算定(Ⅰ)については、対象者20名について算定(676,000円/年の収入)。対象者全員の把握が出来なかったことは、次年度の課題。

〔2〕各委員会の取組み

1. 事故発生防止委員会

活動報告

年2回の施設内教育の実施

- ・7月 「事故報告件数の統計・考察」・「ヒヤリハットについて」
- ・11月 「危険予知トレーニングの実施」

イラストを用いた訓練で、危険を予知する力を養えた。

自分達では気付かなかった危険に対する考え方を共有できた。

事故報告

令和6年度における事故報告書の提出件数：前年度比で18件減の108件が発生

- ・転倒・転落事故 33件(54件)^{※2} ・表皮剥離 20件(24件)^{※2}
- ・誤薬 4件(10件)^{※2} ・皮下出血 41件(31件)^{※2} ・骨折 4件(1件)^{※2}
- ・その他の事故 6件(7件)^{※2}

※2()内は前年度件数

事故の内容	件数	割合(%)	詳 細			
転倒・転落	33	30.6	従来型 ショート デ イ	11 3 4	ユニット G・H	8 7
表皮剥離	20	18.6	従来型 ショート	8 3	ユニット	9
誤 薬	4	3.8	従来型 G・H	1 1	ユニット	2
皮下出血	41	37.9	従来型 ショート	13 2	ユニット G・H	25 1
骨 折	4	3.7	従来型	2	ユニット	2
義歯紛失	1	0.9	ユニット	1		
窒 息	2	1.8	従来型	2		
食事提供遅れ	1	0.9	栄養課	1		
車輛事故	1	0.9	デ イ	1		
車輛事故	1	0.9	デ イ	1		
合 計	108	100.0				

・転倒転落事故に関して、前年度より約 20 件減少しているが同じ方が何度か転倒されている事もあった。その方の行動パターンの分析や環境整備を実施していく必要がある。誤薬の件数も 6 件減少しているが 0 にできる事故の種類なので服薬時の確認事項を徹底していく。皮下出血が 41 件あったが皮下出血の段階で対策を考えることとヒヤリハット報告を活用し、今後の事故予防に繋げていく。

骨折の 4 件の内、原因が確定できない事例が 3 件あった。高齢者は少しの力が加わることで骨折しやすいことを念頭に、あらゆる場面で丁寧な介護、安全な環境整備を行う。

2. 感染防止対策委員会

- ・感染対策委員会を、奇数月第三金曜日に実施
コロナ対策会議は今年度臨時開催とし、コロナ感染確認時に開催し感染状況、対応策など各部署との情報共有に努めた。
- ・年 2 回職員会議にて全職員を対象とした感染予防に関する研修を行った。
5 月「食中毒について」(DVD 視聴 20 分)
9 月「インフルエンザ コロナウイルスについて」(担当：施設看護師)
- ・入所者の高齢化も進んでおり、また個々の体力の低下もみられ、細心の注意を払いながら健康管理を行なった。
- ・コロナ感染に関する注意喚起を継続して行ったが 4 月利用者 1 名、5 月入所者 5 名職員 3 名、6 月に職員 1 名、7 月利用者 1 名、職員 3 名、1 月職員 1 名、2 月利用者 10 名、職員 4 名、3 月利用者 6 名がコロナ感染された。今後はマスク着用日々の体温チェック等感染対応を緩和していくことから、日々の健康管理に更なる

注意を払うことが必要となる。

3. 褥瘡防止対策委員会

1. 褥瘡防止対策委員会を偶数月の第3金曜日に実施出来た。
エアーマット使用状況と会議録を各部署へ配布し周知した。
2. 褥瘡発生時はナースへ報告、ナースからドクターへ報告し、指示による処置を行い、専門医とも相談しながら悪化防止に努めた。デイサービスでは、利用日に必要な処置を行った。
3. 施設内研修にて勉強会を実施し職員への周知を行うことが出来た。
9月「褥瘡の発生原因と予防法、対処法について」(担当:施設看護師)
1月「褥瘡・ポジショニングについて」(担当:施設作業療法士)
4. 皮膚状態に応じてエアーマット使用し必要時おむつ交換の時間の検討、栄養面の再評価等を行い悪化防止に努めた。
5. 従来型のべ6名(そのうち2名は2回、褥瘡形成と治癒を繰り返している)、ユニット3名、デイサービス5名に褥瘡形成が見られた。前年度、デイサービスは0名であったが、5名増加しており、介護度が重度の方が利用されることが多くなったことが原因の一つに考えられた。入所の方のほとんどの方は1ヶ月以内に治癒しており、早めの対応が継続できているものと思われた。デイサービスは毎日利用されるわけではないため、受診や治療し始めるまでに時間がかかることも多く、治癒までに1ヶ月以上かかることが多かった。入所の方のエアーマットの使用状況については、毎月6～8名程使用されている。

4. 身体拘束廃止委員会

- ・身体拘束廃止委員会を奇数月の第3金曜日に実施出来た。
- ・年に2回は職員会議の場を活用して、全部署の職員を対象に身体拘束に関する研修を実施し拘束廃止に取り組んだ。
5月「身体拘束廃止について」
10月「身体拘束について」(グループワーク)
- ・新規職員採用時にも身体拘束についての研修を行い、意識付けを行った。
- ・職員全員が身体拘束廃止の意識を高め、「身体拘束ゼロ作戦」に取り組んでおり、令和6年度の身体拘束者は皆無であった。今後も継続していくこととしている。

5. 高齢者虐待防止委員会

- ・指針に沿って奇数月第3金曜日に委員会実施。
- ・「虐待の芽チェックリスト」による自己・それぞれの事業所の振り返りを実施。(年2回)
- ・研修会の実施
7月:「虐待防止マニュアルについて」「虐待発見時の対応について」
8月:「アンガーマネジメントについて」(講師:上田社会労務士事務所 山崎 苑華 氏)

11月：「虐待の芽チェックリスト実施結果報告と今後の注意点」

前年度の虐待の疑いについての通報を機に、全員で虐待防止についての研修やチェックリストによる振り返りを行った結果、令和6年度は不適切ケアや虐待に繋がるような相談や事例はなかった。今後も研修やチェックリストによる振り返りを行い、組織として虐待や虐待に繋がるような不適切ケアの防止に努めていく。

6. 衛生委員会

「職場内のリスクを低減すると共に、職員全員が安全で健康に働き続けることのできる、快適な職場環境づくりを積極的に推進する」という方針のもとに活動している。

- ① 職場の4S活動チェックシートに基づき各部署清掃を行い、働きやすく清潔な職場環境をつくり、労働災害の防止にもつながっている。
- ② 職員健康診断の受診率は100%
再検査・精密検査・要治療の指示を受けた職員に対する病院受診の推奨。
- ③ 腰痛予防対策として、職員会議においてPT・OTの指導による体操を行った。
- ④ ストレスチェックを10月に行い、高ストレス判定者の中から希望した数名が面接指導を受けた。
- ⑤ 毎月の衛生委員会にて、安全衛生や健康への豆知識の情報発信を行った。

主な活動

- ・ 職場の4S活動チェックシート（8/23・12/27・3/28 判定）
- ・ 職員健康診断
- ・ 浴槽水水質検査 5/27
- ・ ストレスチェック 10/4～10/11
- ・ 安全衛生管理マニュアルの見直し
- ・ 腰痛予防対策：職員会議に行うPT・OTの指導による体操

情報提供

- ・ 安全運転のポイント：単路・交差点における「見えない危険」について
- ・ 知って防ごう！レジオネラ症
- ・ 健康診断結果から自分の身体を知りましょう！
- ・ 肝臓に良い生活3つのポイント
- ・ 夏バテは防げる！～夏の暑さに負けない食事～
- ・ 転倒災害（業務中の転倒による大怪我）に注意しましょう
- ・ 「スポーツのためのエクササイズ」体幹トレーニング
- ・ 不調の原因はスマホかも？！スマホ猫背改善ストレッチ
- ・ セルフケアのポイント（メンタルヘルス）
- ・ 「ホントの血圧」を知ろう！
- ・ わが家の防火対策 安心チェック
- ・ 冬季の安全運転のポイント
- ・ 食事で乗り切る！冬の体調管理
- ・ 令和版！たばこものしりクイズ

7. 教育委員会

1. 会議の取り組み

令和6年度の教育目標を『教育委員としてパソコンの基本操作を習得し、議事録等の作成が出来る様になる』とし、各部署協力のもと、議事録作成についても遅滞無く遂行出来た。

2. 施設内教育計画の立案・実施・評価

研究発表を事前録画し再生する方式に変更し、スムーズに研究報告が出来た。

3. 施設内研究発表会の実施、各部署より発表

2月

安らぎのある生活（従来型）

自由に過ごさせていますか？（ユニット）

利用者の笑顔の為に（デイサービス）

3月

事例紹介（居宅）

地域との関わり（地域連携室）

地域とのつながり（栄養）

職員投票の結果、1位 ユニット、2位 栄養課、3位 デイサービスだった。

〔3〕地域貢献

1. 地域交流スペースの利用

- ・七城混声コーラスクラブの練習に開放
隔週木曜日 13時30分～

2. 実習生等の受け入れ（職場体験）

「介護実習」

- ・城北高等学校

1年生1名 7月23日(火)～ 7月26日(金) 4日間

1年生1名 10月21日(月)～10月25日(金) 5日間

「職場見学」

- ・菊池女子高等学校

3年生1名 7月26日(金)

3. ボランティア関係

- ・七城混声コーラスによる童謡クラブ・青空コンサート開催。
- ・くまもと食名人による郷土料理指導
- ・保育園児の来園
- ・その他、七城地区民生委員・児童委員の皆様による草刈り作業（5/10）の他、

年間を通して、地域の皆様に園内の環境整備や四季折々の花の展示や提供を行って頂いた。

〔4〕年間の行事

1. 清泉敬老祝賀会

コロナウイルス感染症予防により令和 2 年度から各部署で開催していたが、今年度は感染症対策を行った上で、試験的に、利用者家族と民生児童委員を招待し、敬老祝賀会を開催した。

日時：令和 6 年 9 月 18 日（水）14 時～15 時 30 分

場所：清泉大ホールにて

※参加者総数 約 120 名

・利用者等 60 名

・入居者家族 38 名

・民生委員 24 名（七城町、泗水町）

・記念品贈呈 （百歳以上 4 名、百歳 2 名、白寿 4 名、米寿 4 名、喜寿 2 名）

・全員合唱 「唱歌：ふるさと」を参加者と職員の全員で合唱

2. 清泉文化祭

前年同様、一同に会した文化祭の開催は行わなかったが、デイサービスでは、デイホールに利用者様の作品を掲示・展示物を展示した。

3. 秋を楽しむ会

地域ボランティアの皆様と共に郷土料理（お姫様団子汁・新米のおにぎり）をふるまいながら、秋空の下、七城混声コーラスによるコンサートを開催し、利用者、利用者家族、地域の皆さん方が、楽しいひと時を過ごした。

日時：令和 6 年 11 月 7 日（木）13 時～15：00

場所：グループホーム中庭

以 上

事業報告の附属明細書

令和 6 年事業年度においては、一般社団法人に関する法律施行規則第 34 条第 3 項に規定する附属明細書に附属明細書に記載すべき「事業実行の内容を補足する必要な事項」が存在しないので作成しておりません。

社会福祉法人愛敬会

令和 7 年
第 2 回理事会 第1号議案

令和 6 年度 事業報告

令和 7 年 5 月 24 日